

# 愛知サークル1月例会報告

2021年1月4日(月) 桜花学園大学 参加9名  
2021年1月24日(日) 午後のみ 桜花学園大学 参加: 8名

## <1月4日(月)>

特別例会として、教材解釈一本に絞り「世界一美しいぼくの村」「くまさん」「知らない子」解釈を行った。このうち、「くまさん」を共通教材として実践し、次回実践記録を持ってきて検討することとした。

## <1月24日(日)>

### I 「文学教材」の追求

#### (1) 「くまさん」

1月5日に教材解釈したので、共通教材として3名が実践した。実践記録と映像を検討した。

大問題は

「そうだ ぼくは くまだった  
よかったな」

の部分で、何がよかったのかを追求した。

A: くまだとわかったこと

B: くまであったこと

- ① 教師は、Aの「自分がだれか分かってよかった」という解釈で授業に臨んだ。手立てとしては、「ぼんやり」と「うつった」の言葉で突破できると考えていたが、実際はそうならなかった。
  - ・子どもは一連の言葉に着目していいことを発言しているが、教師がそれを拾えずにスルーしている。自分の地図が弱いからで、授業の組み立てができていない。きちんと丁寧にやりたい。
  - ・問題ができたときや、対立が出た時の裏側の前提を丁寧にみんなで確認してから追求に入っていきたい。
- ② 「変だ、おかしい」を見つけてから、問題見つけをして話し合った。
  - ・メインの問題は、やらなきゃいけない。大事な問題をスルーしている。まず、教師自身がちゃんと教材のイメージをもって、ちょっとしたところをきちんと解釈しておかなくてはいけない。
  - ・子どもは、「のは」とか「だが」など、キーワードに気づいて発言しているが、教師はそこに問題意識が向いていないからスルーしていてもったいない。
- ③ 教師はAの「自分がだれだか分かってよかった」という解釈で臨んだ。問題解決の手立てとしては、「ぼんやり」「うつった」「いいかお」の言葉で突破しようとした。
  - ・子どもが対立しないときには、教師が対立先になり深く読ませようと意図して授業を進めている。

- ・子どもは優秀で脱線しようがない。教師の意図したようにいっているのではないか。

(2) 解釈「世界一美しいぼくの村」(4年)

兄さんは兵隊になって戦いに行っている。南の方の戦いはかなりひどいと聞けば、「きっと春には元気にかえってくる」と信じていても「何だかむねがいっぱいになってくる」ヤモが、大喜びで村へもどってくるのは「変だ、おかしい」そのわけは、何だろう。

大喜び→願いがかなう→ヤモの願いは何?→どういう形で願いがかなったの?

授業の前にこの辺りをきちんと整理して臨みたい。